



問 小さくても魅力と活力あふれるまちづくりについて

答 ネットワーク作りを推進して活性化を図る

高齢化、人口減の町を活性化させるためには、町の情報を内外へ発信し、関心度を高めることから始まると考えるが。

問 町内外への発信は。

総務課長 広報紙とホームページを始め、ツイッターやフェイスブック等のSNSで、イベント情報、季節の見どころ、事業紹介、動画配信などホットな話題をタイムリーに発信しています。また、3月に「五霞町魅力まるわかりガイド」を作成しました。今期、組織を観光業務と情報発信業務を一元化、広報戦略グループとし、戦略的に情報発信をしています。

問 活性化の創出の取組みは。

政策財務課長 五霞町まち・ひと・しごと創生総合戦略に則り、目標を立て、有識者会議で町を外側から見た目線による評価を加味・検証しながら推進しています。

問 五霞町の魅力とまちづくりの考えは。

町長 幾度となく水害に見舞われた過去から引継がれた助け合いと思いやりの「絆」がまちづくりのキーワードであり、第一

の魅力であります。河川の自然環境や埋れている魅力を発掘・発信することも大事だが、町に関わる人達それぞれに応じたネットワーク作りが重要だと考えます。



ツイッターの発信は年間約 700 件！

問 水道事業の広域化について

答 次世代の負担軽減のためにも広域化をしたい

町の水道事業の経営は厳しい状況にある。地理的条件を踏まえ広域化はその具体的打開策になり得るのか。

問 進捗状況は。

上下水道課長 令和4年までに茨城県が水道広域化推進プランを作成するため、市町村に積極

的な行動要請がなされています。

問 広域化推進の課題は。

上下水道課長 ①河川により他市町と分断された地理的条件②地下水採取の規制③河川水を水源とする浄水場の単独保有など経営面や財政的にも問題がありますが、茨城県と協議を始めて

います。

問 町長のお考えは。

町長 予算ベースで上下水道赤字補填に一般会計から6億300万円の繰入れを予定しています。今後、更なる財政悪化を考慮すると、国が推進する広域化事業に乗り、ぜひ進めていきたい。

※他に、五霞町居住の外国籍者の現状について問いました。